様式第３号

事務事業評価表（平成29年度）

事業コード	1097	課コード	1701	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業	子育ち環境づくり	実施計画への位置づけ	●有　○無
		個別事業	手賀の丘ふれあい宿泊通学	②部課名	子ども部・子ども支援課
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成17年度　～		⑥担当職員数	3 人　（換算人数　0.65 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	6,536 千円	当該(開始)年度	（当　初）6,477 千円　（うち人件費　5,720 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード：33104	重点プロジェクトへの位置づけ：重点４	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無
				部門別計画への位置づけ	（計画名）子ども総合計画、生涯学習推進
(2)目的	施策目的・展開方向	子どもたちが自主性、社会性、創造性などさまざまな能力を伸ばし、生きる力を身につけられるよう、青少年育成団体への支援と連携を強化しながら、宿泊通学やキャンプなどのさまざまな体験活動を推進します。また、保護者や地域の方々と連携して、子どもたちが安心してのびのびと過ごすことのできるあびっ子クラ		事業目的	手賀の丘少年自然の家を宿泊場所として、通学しながら、子どもが集団のなかで自己を確立し、心の交流や連帯感を身に付け、社会のルールを養い、自立心や協調性などを育む機会を提供する。
(3)事業内容	内　容	市内数校の小学生が２泊３日の日程で、放課後、手賀の丘少年自然の家に集い、ともに掃除や食事、宿題などの生活体験を行う。対象は各回とも小学５～６年生の男女計３０人程。		当該年度執行計画	年３回、小学５～６年生対象、２泊３日の日程で、手賀の丘少年自然の家を宿泊場所とし実施する。 各回３０名程公募により募集、応募者多数の場合は抽選とする。 なお、実施前には、参加者及び保護者、職員スタッフが一同に会し、事前研修会を開催し、事業の趣旨を徹底させるよう努める。
				当該年度活動結果指標	全参加者数　単位：人　想定値 86　実績値 82

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	参加した子どもの自立心、協調性が育まれる子どもの数を増やす	直接	参加児童の保護者向け事後アンケートにおける参加者の生活の変化を感じたと回答した参加者の割合	%	68	70
平成30年度	同上	直接	同上	%		65
平成31年度	同上	直接	同上	%		75

(7)事業実施上の課題と対応	学校行事（運動会、林間学校、修学旅行等）との調整、2泊3日参加できるスタッフの確保。また、他校・異学年の児童を対象とするため、教育委員会や関係課と密接な連携をとり、参加者の状態把握、対応方法等協議していかなければならない。	代替案検討	○有　●無

(8)施行事項	平成28年度 政策	内　容	金額(千円)	平成29年度 政策	内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	平成30年度 政策	内　容	金額(千円)	平成31年度 政策	内　容	金額(千円)
実施内容 費用		支援者報償費	38		支援者報償費	100	10		支援者報償費	100		支援者報償費	100
		旅費（普通旅費、費用弁償）	28		旅費（普通旅費、費用弁償）	37	20		旅費（普通旅費、費用弁償）	37		旅費（普通旅費、費用弁償）	37
		需用費（消耗品費・食糧費・賄材料・印	344		需用費（消耗品費・食糧費・賄材料・印	527	300		需用費（消耗品費・食糧費・賄材料・印	527		需用費（消耗品費・食糧費・賄材料・印	527
		役務費（通信運搬費・手数料・保険料）	61		役務費（通信運搬費・手数料・保険料）	93	56		役務費（通信運搬費・手数料・保険料）	93		役務費（通信運搬費・手数料・保険料）	93
予算(決算)額		合　計	471		合　計	757	386		合　計	757		合　計	757

(9)財源内訳	平成28年度	平成29年度		平成30年度	平成31年度
国庫支出金	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0	0	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0
県支出金	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0	0	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0
起債	充当率 0 % 0	充当率 0 % 0	0	充当率 0 % 0	充当率 0 % 0
一般財源	237	757	140	757	757
その他の財源	□特会 ■受益 □基金 □その他 234	□特会 ■受益 □基金 □その他 0	246	□特会 □受益 □基金 □その他 0	□特会 □受益 □基金 □その他 0

(10)人件費等	平成28年度	平成29年度		平成30年度	平成31年度
換算人数(人)	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
正職員人件費	5,720	5,720	5,720	5,720	5,720
嘱託職員報酬額	0	0	0	0	0
臨時職員賃金額	0	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	6,191	6,477	6,106	6,477	6,477
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	79.37千円／人	75.31千円／人	74.46		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	放課後、子どもたちの多くは、部屋に閉じこもり、ゲームや塾や習い事などで忙しく、外で遊ぶ姿を見かけなくなっている。こうした子どもたちに対して、初めて会う者同士の集団生活の機会を提供し、日常生活の様々な体験活動をともに行うことで、連帯感を身に付け、社会のルールを養う。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 他校、異学年の児童が手賀の丘少年自然の家で共同生活を送ることにより、協調性、自立心を育む一助となった。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない (理由) □法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである (理由) ■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 全校を対象としており、学校との様々な調整、手賀の丘少年自然の家と連携、調整、教育委員会との協議など企画から運営までの全般を行っている。 市が主導で勧めなければ難しい事業である。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：市民スタッフや大学のボランティア学生と事業を実施している。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：川村学園女子大学と協定書を締結し班担当のスタッフとして参加いただき大きな成果となった。 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： ■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：手賀の丘公園等で自然とふれあうプログラムを実施している。	実施した具体的な内容：手賀の丘公園などで自然とふれあうプログラムを組んで実施した。 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(%)	目標値(b)(%)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(%)	達成率(%)(f/b×100)	
	68	70	■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	80	114.29	●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 川村学園女子大学と協定書を締結しスタッフとして参加いただくことにより人件費の削減につながった。

(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100	
	6,477	△286	△4.62	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	6,106	94.27	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞

事業費の削減対策について：
●①事前の想定どおり
○②事前の想定どおりでなかった
＜想定どおり削減できなかった原因＞

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100		
	1.08	%	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	1.31	121.3	●①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 川村学園女子大学と協定書を締結しスタッフとして参加いただくことにより人件費の削減につながった。

３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　●事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	子どもの自立心、協調性を育む上で効果的な事業であるが、学校からの宿題対応や手賀の丘少年自然の家での朝食の対応ができないなどの課題があることから、事業手法を見直していく。	３０年度から、事業名を「手賀の丘宿泊事業」とし、開催する曜日や宿泊数、プログラムなどを見直して実施していく。